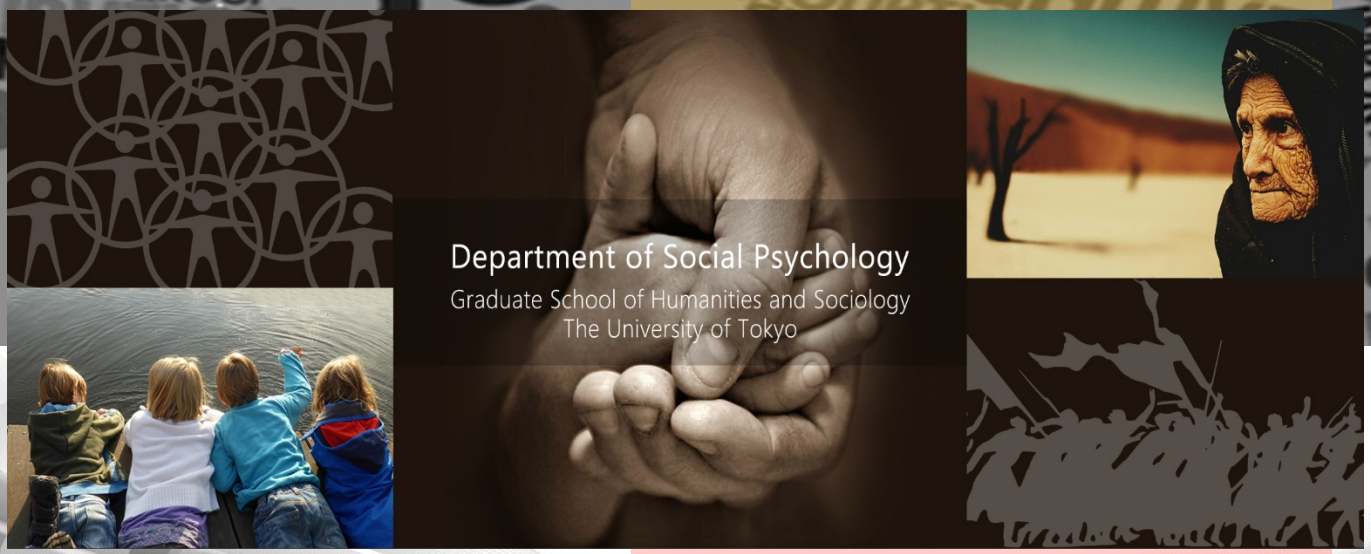
2020 年度ガイダンス資料

Faculty of Letters

社会心理学



●○●社会心理学へのお誘い●○●

……「社会心理学」とは、どのような学問なのでしょうか？

皆さんの中には、社会心理学を「心理学の一分野」だと考えている人がいるかもしれません。心理学は「様々な行動と心の関係」を考える学問であり、社会心理学は「社会的な行動と心の関係を考える……」とするなら、たしかに、そのような考えがあてはまることになります。

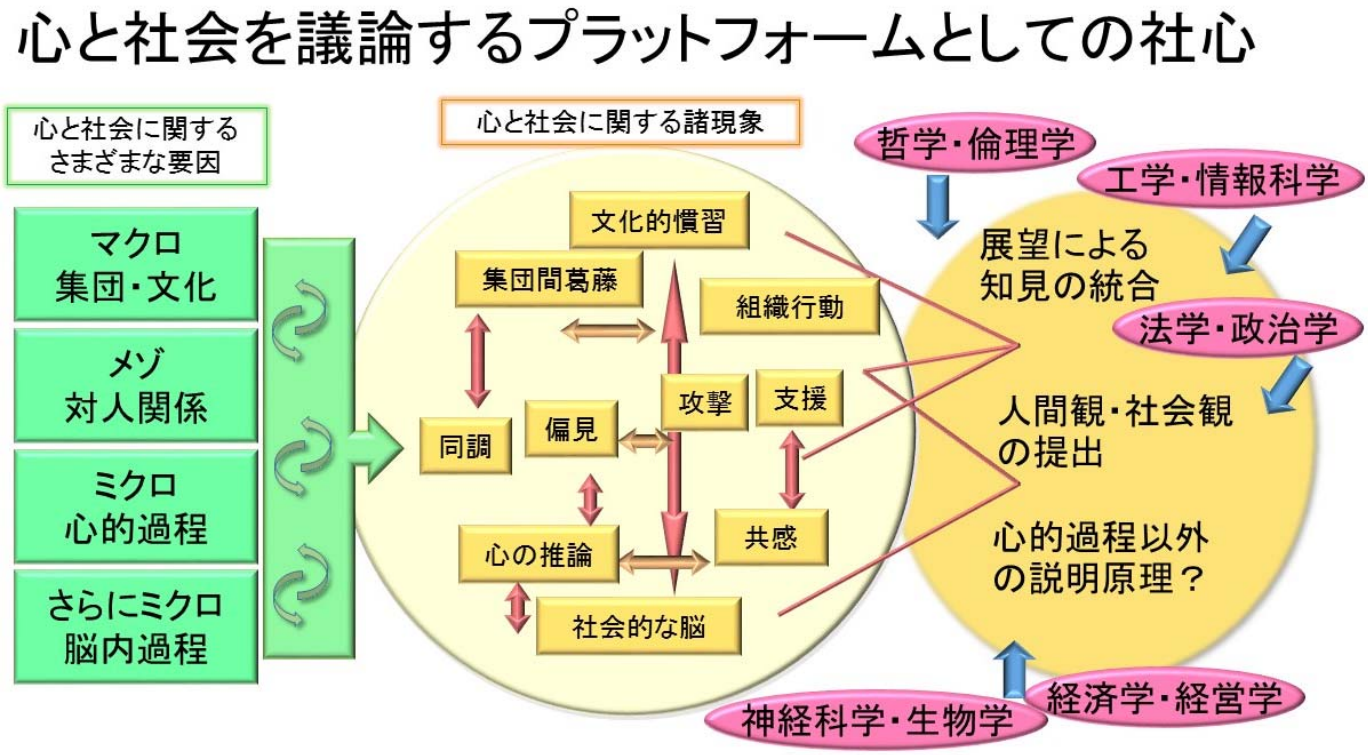
しかし、社会心理学研究室のスタッフは、社会心理学を、より「広くて深い」もの……すなわち、人と社会との関係や、社会における人の性質、心の成り立ちやそのメカニズムについて総合的に考える学問であると捉えています。

このことは、社会心理学が対象とするものの広がりをみると分かります。社会心理学が研究対象としている、主なものをリストにしてみましょう（↓）。そうすると、「社会心理学は、脳から文化まで、また多様な個人の行動や社会現象をその守備範囲としている」ということが分かるかと思います。

- 脳内で生起している神経科学的な過程
- さまざまな身体的・生理的反応
- 個人の感情や動機
- 推論や社会的判断
- 態度
- 援助や攻撃などの社会的行動
- 対人関係
- 集団での意思決定や問題解決
- 集団内のネットワーク
- 文化の影響や文化の形成

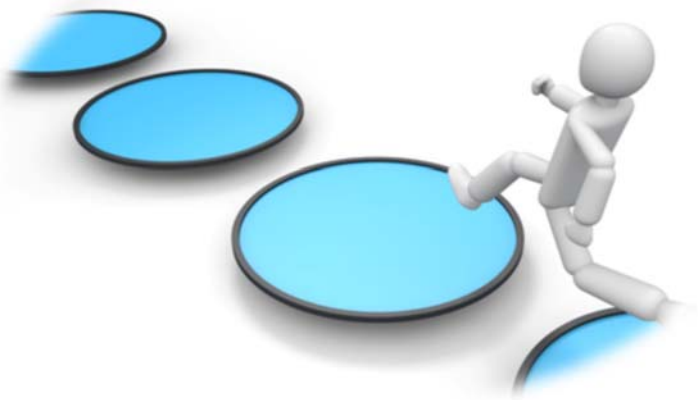
文学部に関心を持っている人の多くは、「人間」や「社会」などに興味をお持ちだと思います。また、中には、「社会的な行動と脳の関係について研究したい」、「人間の感情の理不尽さについて考えたい」、「偏見・格差・援助などの社会問題について議論したい」、「企業の中でのリーダーのあり方について考察したい」など、もっと具体的なアイデアを持っている人もいるかもしれません。そのような皆さん、一度、社会心理学の世界をのぞいてみませんか？　そこには、人や社会に対する様々な興味関心を吸収し、発展させることのできる、豊かな学問の世界が広がっています。あなた自身の問いを発見し、その問いを追及する楽しみを社会心理学研究室で見つけることができるよう、私たちは心から願っています。

●○●社会心理学のコンセプト●○●



「心と社会がおりなすさまざまな現象について議論するためのプラットフォーム」

…私たちは、社会心理学をそのような学問としてとらえ、さまざまな研究プロジェクトに取り組んでいます。その多様性と可能性、そして新たな発見を生み出すことの楽しさを、共有しませんか？



教員紹介

文学部を代表する、個性と経験豊かな教員とともに、どのような研究生活を過ごせるのか、イメージしていただければと思います。

亀田 達也　教授

Tatsuya KAMEDA

HP: http://www.tatsuyakameda.com/

【研究テーマ・専門分野】

人間のヒトとしての側面に関心を持ち、脳科学、経済学、進化生物学、行動生態学などの他領域の研究者との共同を通じて、社会的意思決定のメカニズムについて研究しています。現在、私の中でホットな（＝現在進行中の）研究領域は、以下のとおりです。

（１）「集合知」の認知・生態学的基盤の理解

群居性動物であるヒトは、集団に大きく依拠した生活様式をもっています。それでは集団生活に伴うコストとベネフィットはどのような形で統合・処理されるのでしょうか。同じく群居性動物である社会性昆虫（ムネボソアリ）を研究しているアメリカの生物学者と共同しながら、「集団の知恵」を支える認知・行動アルゴリズムを理解しようとしています。

（２）「正義」の脳科学的・行動的基盤の理解

ヒトを人間たらしめる属性として、「正義」や「規範」といった価値に関わる概念をあげることができます。これまで人文学の対象であったこうした高次概念がどのような生物的基盤をもっているのか、脳科学者、経済学者、法哲学者と共同して研究を進めています。

（3）「共感性」の認知・神経基盤の理解

同じく高次属性として考えられがちなヒトの「共感性」が、ほかの動物種とどこまで連続的で、またどのようにユニークなのか、脳科学者、生物学者と共同して研究を進めています。

【行動科学の魅力】

社会心理学を含む「行動科学」の魅力は、人文学・社会科学が数千年にわたって蓄積してきたさまざまな「知恵」を、脳科学や生物学の「知見」とつなぐ役割を果たし得ることにあると考えています。その意味で、さまざまな技術を貪欲に取り入れて先端研究を進めることの醍醐味こそが、私にとっての行動科学の魅力でしょう。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

好奇心をもつと人生はとても豊かになります。「なんでも見てやろう」という気持ちが大切です。もう１つ、皆さんがいま東大にいるという事実は、「自分が優秀だから」だけではなく、さまざまな社会的恩恵を受けてきたことの結果だと言えるでしょう。そうした恩恵を社会に返していくノブリス・オブリージュを感じてほしいと思います。

【おすすめの著書・編著書】

◆亀田達也（著）『モラルの起源―実験社会科学からの問い』 岩波新書 （平和な暮らしをいかに築くかという人文社会科学の基本問題に対して、“実験社会科学”の構想を論じたマニフェスト）

◆山岸俊男・亀田達也（編著）『社会のなかの共存』 岩波書店 （「平和な暮らしはどのように実現できるのか」というホッブズ以来の問いに、社会科学者と生物学者が共同でアプローチした本）

◆亀田達也 （編著）『「社会の決まり」はどのように決まるか』勁草書房 （社会規範の成立と維持を支えるようなヒトの認知・感情メカニズムに関する研究がまとめられた本）

唐沢 かおり　教授

Kaori KARASAWA

HP: http://www-socpsy.L.u-tokyo.ac.jp/karasawa/

【研究テーマ・専門分野】

様々な情報から、私たちは心の中に「社会」を描き出します。自分や他者、社会的な出来事が、いったい「何者なのか」を理解し、評価します。この過程の背後には、どのような心のメカニズムがあるのでしょうか。この問いを、特に「Moral agent」（道徳的主体）としての私たちの認知特性に焦点を当てて考えています。私たちは、単に、社会的な情報を処理して理解するだけの存在ではなく、自分や他者、社会全体を、「道徳的に良いか悪いか」という観点から評価することに志向づけられている存在です。その存在を支えている心の仕組みについて、他者の「心の推論」と対人判断や対人行動との関係や、自由意志に対する考え方が自己制御に及ぼす影響、ライセンシング（自分自身に対して与える「権利や許し、言い訳」）と道徳的行動との関係を中心に検討しています。また「応用問題」として科学コミュニケーションや実験哲学的なプロジェクトにもかかわっています。

【社会心理学の魅力】

複雑な社会や自分とは異なる他者、さらには社会的存在としての自分自身について、分析的に考え、自分なりの社会観、人間観を作り上げるための道具と方法（概念や理論、思考様式）を提供してくれることです。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

自分がいまだ把握していない「知」に対する敬意と、それを吸収しようとする貪欲さ、そして、自分が得たものを、よりよい形で現実の社会やこれまでに築かれた知の体系に還元していこうとする意欲を持ってください。学問は世界をのぞき見るための「窓」でもあります。そこから見える景色は、窓によって、少しずつ違うけれども、皆さんが「本質的だ」と思える景色が見える窓が見つかりますように。

【おすすめの著書・編著書】

◆唐沢かおり（著）なぜ心を読みすぎるのか：みきわめと対人関係の心理学　東京大学出版会　（心を斟酌し他者を評価することで繰り広げられる人間関係と、その背後にある心的過程を論じた本）

◆唐沢かおり・林徹（編）人文知Ⅰ　心と言葉の迷宮　東京大学出版会　（東大文学部の多様な魅力を伝えるシリーズの一巻目です）

村本 由紀子　教授

Yukiko MURAMOTO

HP: http://www.ym-lab.com/jp/

【研究テーマ・専門分野】

さまざまな社会環境と、そこに身を置く個人の心理・行動傾向とのダイナミックな関係に関心を持ち、以下のような研究に従事しています。

（１）関係性の視点に基づく「心の文化差」の理解…欧米人とアジア人の心理・行動傾向には多くの文化差があると言われますが、ひとりの人間が身を置いているのは、アメリカ文化、日本文化などとラベルづけされるような一枚岩の文化ではありません。人は他者との多彩な関係性に幾重にも取り巻かれ、各々の関係性に応じて異なる心的過程を生起させます。欧米の研究者とも連携しつつ、そのメカニズムの解明を目指します。

（２）集団規範や文化的慣行の生成と再生産過程…組織や集団、共同体には、明文化された規則のみならず、暗黙のルールが数多く存在し、知らず知らずのうちに成員の心理や行動を規定しています。そうした規範や慣行はいかにして作られ、維持されるのか。産学連携の企業調査や地域社会でのフィールドワークなどの「現場」に根差した研究と、実験的手法を駆使して「理論」構築を目指した研究とを両輪として、この問題にアプローチしています。

【社会心理学の魅力】

ある企業で実績を残した経営者でも、別の企業で再び手腕を発揮できるとは限りません。優勝したスポーツチームが、同じメンバーで翌年には沈むこともしばしばです。なぜ？組織や制度だけを眺めても、個々の人間だけを眺めても、その答えは見えてきません。「社会」と「心」のダイナミックな関係を探究することの醍醐味が、ここにあると思います。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

「書を持って街へ出よう」。社会心理学の問いは現実の社会生活のなかにあります。だからこそ、アタマとカラダの両方を動かすことをいとわない、元気と意欲を求めます。学問で得た知識や理論を、私たちが生きる日常の現場に結びつける視点をもつことは、卒業後に選ぶ進路がどのようなものであれ、きっとみなさんの役に立つと思います。

【おすすめの著書・編著書】

◆池田謙一・唐沢穣・工藤恵理子・村本由紀子『New Liberal Arts Selection 社会心理学』有斐閣　（組織、集合行動、文化に関わる諸問題に多くの紙幅が割かれています）

◆ R. E. ニスベット著・村本由紀子訳『木を見る西洋人 森を見る東洋人』 ダイヤモンド社　（文化心理学の知見を広く学ぶために。と同時に、本書の議論をいずれ越えていくために。）

白岩　祐子　専任講師

Yuko SHIRAIWA

HP: http://yukoshiraiwa-rana.jimdo.com/

【研究テーマ・専門分野】

殺人・交通などの犯罪や医療事故の被害者が、一度は失った社会への信頼を取り戻す上で、どのような法律や制度が助けになるのかを研究しています。とくに、心のケアなどの情緒的サポートではなく、「（司法解剖で）遺体を傷つけないでほしい」「事件事故の真相を知りたい」「公正な裁判であってほしい」という認知的なニーズの文化差やこれらの充足による効果に注目し、構造化面接や自然実験などの手法を用いて明らかにしようとしています。

専門分野は、上記テーマを内包する「行動政策学」や市民の司法参加（裁判員制度）、そして信仰の心理学（死後生への信念、形見の意味など）です。

【社会心理学の魅力】

「美はみつめる者の目（心）の中に宿る」と言います（C ブロンテ）。つまり、美しさや愛しさ、悲嘆、苦痛、充足、正義や公正さ、こうした人間らしい経験はすべて、私たちの主観世界で展開されている心の営みです。社会心理学はこの営みに法則性を仮定し、それをなんとか取り出そうと試みてきた学問であり、そのためあらゆる文脈、出来事、時間軸がテーマとなりえます。これほどフィールドの広がりをもつ学問が他にあるでしょうか。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

「燃えさかるような熱意をもって取り組むというよりむしろ、どのような事態が途中で生じても投げ出さずに長期にわたって関わり続けられるだけの静かで穏やかな熱意と、同時に関連する制度・機関・個人等を含む問題全体を視野に入れながら社会全体のバランスが極端な方向に傾かないように見据える冷静な目と長期的展望を持つこと。」かつての恩師の言葉です（長井, 2004）。みなさんが静かな情熱を傾けるに相応しいテーマと出会えますように。

【おすすめの著書】

◆ジュディス L ハーマン（著）中井久夫（訳）『心的外傷と回復』みすず書房
（「トラウマ」「PTSD」という語を世に知らしめた精神医学の名著）

◆高橋シズヱ・河原理子『犯罪被害者が報道を変える』岩波書店
（高橋さんは地下鉄サリン事件のご遺族、河原さんは当研究室出身の朝日新聞論説委員）

◆E. Shafir（編）『The Behavioral Foundations of Public Policy』Princeton Univ. Press
（研究の社会実装にむけて。今夏『行動政策学』として福村出版から刊行予定。）

橋本　剛明　助教

Takaaki HASHIMOTO

HP: http://www-socpsy.L.u-tokyo.ac.jp/~hshmt/

【研究テーマ・専門分野】

人間の道徳的な側面に焦点をあてた研究を行っています。人を傷つける、あるいは規範を侵す人間に対して、人は、どのような心理的過程を経て制裁などの反応を示すのか。謝罪はなぜ、そしていかなる条件のもとで、コンフリクト解消に効果的なのか。一方で、ときにやむをえない理由で、人は規範を破る側に立つこともあります。まさしく「状況の力」がそうさせる、という場合に、人間の注意や感情がどのような働きをみせるのか。それらの問題について、実験を主たる「武器」にアプローチしています。

【社会心理学の魅力】

人間の思考・判断・行動の多くは、個人的特性や置かれた状況、さらには人間に備わっている様々な反応の傾向性（ないしバイアス）が、複雑に絡み合った上で生まれます。ある行動に、「想定外」の要因が関わっていたり、「当たり前」と思われていた説明が覆されたりということが、実験・調査を通じて明らかになることがあります。そのような驚きを味わえる点や、人間の行動に関する「謎」を解明するために、科学的なアプローチという確固たる「武器」（※使いこなすにはそれなりの修練と実戦経験が必要）を手に立ち向かう点、そして、目には見えない心理的プロセスを実証の俎上の載せるために「創意工夫」がものをいう世界である点が、大きな魅力だと感じます。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

社会心理学は、人間行動のあらゆる側面が研究対象となりうる、とても懐の広い学問です。それは大きな強みですが、時に、射程が広大すぎて自分の関心が定まらないといった迷いの種にもなります（特に卒論の研究テーマ選びの際など）。心理学にもそれ以外の領域にも、幅広く興味を持ち、自分の中の関心・問題意識・ワクワクに真摯に向き合ってほしいと思います。そして、自分が感じた「なぜ・なに？」を単なる疑問に終わらせず、それは価値ある問いだろうか、科学的に検証できるだろうか、と思いを巡らせてみてください。

【おすすめの著書】他の人が書いた本ですが、いくつかご紹介します。

- P・ジンバルドー著『ルシファー・エフェクト』海と月社　（「状況の力」が「普通の人」の道徳性に作用する過程を、著者の有名なスタンフォード監獄実験や、アブグレイブ刑務所での虐待事例の記録などを中心に克明に描いている。）
- 他に…V・S・ラマチャンドラン著『頭のなかの幽霊』角川文庫 ／ 下條信輔 著『サブリミナル・マインド』中公新書　（どちらも学生時代に刺激を受けた本。興味深く、驚くような研究例の数々とともに、実証研究にはアイデアと創造性が大事だと教えてくれる。）

●○●社会心理学研究室の授業●○●

１．概論

基本的には講義形式により、社会心理学に関する様々なテーマを学んでいきます。人間の社会的行動をどう理解すればよいのか、人間という「社会的動物」をどう分析していくかなど、卒論にも通じる科学的視点を養うことができます。※3 年の S セメスターに 2 コマ開講されます。

２．特殊講義

概論に比べ、やや焦点を絞ったテーマについて、その第一線の先生からの講義、あるいはディスカッションを通して理解を深めていきます。講義の題目例（2020 年度）として、「セルフコントロールの理論と実践」、「産業・組織心理学」、「行動経済学原論」などがあります。「専門社会調査士」の資格取得のために必須となる「応用多変量解析」の講義も開かれています。

３．演習

社会心理学の中でも「今が旬」のトピックについて、関連する論文を皆で講読したり、担当者がその割り当て分を発表したり、それをふまえてのディスカッションやグループワークを行ったりします。概論と最も大きく異なる点は、①講義形式ではなく参加型の授業であるということ、②特定の問題について深く掘り下げた学習や議論ができるということです。大学院生の TA がいる場合もあるので、経験値が異なる人たちとのコラボレーションにより、非常にユニークなアイデアが生まれることも多々あります。※毎学期開講される 2 コマのうちから 1 つを選んで履修する必要があります。

４．実習

社会心理学専修課程では、研究の方法論を学ぶための実習科目を設けています。2 年の A セメスターでは、「社会心理学調査実習」および「心理学実験」が開講されます。

調査実習では、何人かのグループに分かれて仮説を立て、それを検証するための調査票を身近な人たちに配り、そのデータを収集・分析することで、調査の具体的手法について学びます。調査実習では、同学年だけでなく教員や TA とも活発に意見交換しますので、研究室内の人たちとの仲が自然に深まります。

心理学実験では、毎週、授業時間中にシンプルな実験を行い、実験内容と分析方法についての講義をふまえて、実験データを分析しレポートにまとめます。分析手法やレポート作成のルールについて、基本的なことを学べます。

さらに、本郷進学後には、社会心理学実習の授業を受講し、研究の現場に入ることで研究能力を身につけます。この授業では、特定のテーマの下、グループに分かれ、院生と一緒に実験・調査・フィールドワークなどを行います。仮説を立てるところから研究デザインの設定、実施、分析と進み、最後に発表会を行います。学部生数人に対して院生が 1 人つく少人数制なので、研究のやり方についてじっくり学ぶことができ、今後何かと頼りにできる院生とも仲良くなれます。

５．リサミ

「リサーチミーティング」の略称で、いわば「卒業論文について相談する時間」です。4 年生になると、その間の 1 年間をかけて、卒業論文を執筆することになります。リサミでは、卒業論文の仮説構築・先行文献の選定・調査/実験方法の検討など、様々なことを教員や TA に相談することができます。

参考として、2 年次の A セメスターと 3 年次の S セメスターの週間予定表の例を挙げておきます。

2 年次・A セメスター（例）

	月	火	水	木	金
1					
2	英語後期(2)		経済学研究 1		社会心理学 統計 1 （必修）
3	社会心理学 調査実習 （必修）	心理学実験 （必修）			行動適応論
4				統計 I	心理学研究法
5		心理学概論		統計 I	こころの 総合人間科学 概論

3 年次・S セメスター（例）

	月	火	水	木	金
1					
2		社会心理学 統計 2 （必修）	社会心理学 概論 2 （必修）	社会心理学 実習	社会心理学 特殊講義
3	社会心理学 演習 （選択必修）	社会心理学 概論 1 （必修）	情報メディア 論		美学芸術学 特殊講義
4		心理学 特殊講義	社会学 特殊講義		
5			心理学 特殊講義		

●○●卒業・修了について●○●

学部４年生になると、卒業論文（卒論）もしくは特別演習（特演）に取り組むことになります。毎年の先輩の様子をみると、やはり卒論の執筆を選択する人が多いようです。卒論では、自分の興味や関心に基づき仮説を立て、調査や実験を行って得たデータからそれを実証することを目指します。特演の場合は先行研究の考察が中心で、集めた論文や研究から自分の仮説を検証していくことになります。このどちらかを提出することが学部の卒業要件ですが、どちらを選んでも調査・実験・統計の授業で学んだことをフル回転させて挑む、あなた自身の「大学生活の集大成」になることは間違いないでしょう。

大学院に進学し、修士課程（博士課程前期ともいいます）では、卒論や特演以上に内容を掘り下げた、本格的な研究をすることになります。

ちなみに、これまで各教員が指導した卒論と修論のテーマを一部挙げておきます。社会心理学の扱うテーマの多様さが感じられると思います。

卒論

◆文化的思考様式と思考表現スタイルの探索的検討
◆パフォーマンスと周囲からの評価が規範遵守行動に与える影響について
◆絵画評価における Death Positivity Bias の検討
◆集団の流動性の維持の要因の検討 ―一般的信頼・暗黙理論に着目して―
◆ミーティングにおける表情の可視性の機能 ―VR 通話を用いた検討―
◆非合理な規範に従い続ける心的メカニズムの検討
◆システムのエラー体験がユーザーの使用判断に及ぼす影響
◆文化的自己観と「甘え」への意識が組織市民行動に及ぼす影響に関する研究
◆社会的交換場面における裏切りを促す二要因と個人特性との関連
◆恋愛不要群の再検討 ～なぜ恋人をつくろうとしないのか～

修論

◆集団の創造性を導く討議プロセスの検討
◆Arginine Vasopressin Enhances Human Defensive Aggression
◆ヒト摂食行動の社会的促進における共食者の脅威レベルの影響の検討
◆多数派のふるまいが第三者の制裁行動に及ぼす影響： 応報的動機に着目して
◆個人の社会的価値志向性と商品特性に関する社会的評価が購買行動に及ぼす影響
◆社会ネットワーク構造はいかに集合知に寄与するか ―時間的変動環境における検討―

●○●卒業後の進路●○●

　これも大事な関心事ですよね！　これまでの社会心理学専修の卒業生の進路は、大学院の他、民間企業、情報産業、官庁など多岐にわたっています。人事、教育、調査、取材、システム・エンジニアリングなど、実習で学んだことを活かせる部門に配属されることが多いようです。近年の卒業生・修了生の就職先（一部）を以下に紹介しておきます。

アクセンチュア、伊藤忠エネクス、外務省、厚生労働省、財務省、シグマクシス、資生堂、住友重機械工業、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ、NHK、ドイツ銀行、東京建物、内閣府、フォースバレーコンシェルジュ、ブリヂストン、三菱ケミカル、三菱UFJリサーチ＆コンサルティング　…etc.

どうでしょう？卒業後のイメージを感じていただけましたか？

もちろん、大学院に進学する学生も多いですよ！（近年では、東京大学大学院のほか、京都大学や北海道大学の大学院など）

●○●研究室の風景●○●

社会心理学専修課程の雰囲気を、少しでも感じていただけたなら幸いです

卒論について、先生や院生を
交えてミーティング

演習授業で、読んだ論文の内容を報告中

卒論発表会ではポスター形式で自分が
行った研究について報告します

学生控え室で、和気藹々と、研究に関する
ディスカッション？はたまた雑談？

研究室スタッフ一同、
皆さんの進学を
お待ちしています！

Email： hshmt@L.u-tokyo.ac.jp